

第5回総会研究会を終えて

池田 高良

第5回総会研究会会長 長崎大学医学部

標記の総会研究会が平成8年9月20日、長崎市において開催されました。全国33道府県から約180名が参加され、盛会のうちに終わることが出来ました。会員の皆様のご支援、ご協力に心より感謝致しております。総会研究会のプログラムでは、先づ厚生省疾病対策課課長遠藤明先生のご挨拶及び厚生省老人保健課課長補佐岡本浩二先生の特別講演「老人保健事業における地域がん登録の役割」の中で、地域がん登録の必要性と重要性が述べられ、同時にがん登録の精度向上と個人情報保護などの課題も提起されました。さらに、がん対策を老人保健事業の枠内のみで考えるのではなく、厚生省全体としてがん対策のあり方を見直す必要性についても述べられました。地域がん登録の運営・実務担当者にとっては、国としての方針を直接に聞くことが出来たことの意義は大きかったと思います。

ところで、わが国のがん登録が世界のなかでどの様に位置づけられているかは誰もが知っておきたい基本的なことであります。花井彩先生には国際がん登録協議会の前副会長として、「世界のがん登録」と題して講演を頂きました。その中で、わが国の地域がん登録は未だ発展途上国の水準にあること、国と地方が協力して登録の水準の向上に一層の努力を続けることの必要性を強調されました。地域がん登録は継続性が必要であるとともに、常に精度向上に努力しなければならないことを痛感しました。

一方、地域がん登録資料は有効に活用して地域のがん対策に貢献することが大切です。すなわち、「役に立つがん登録」でなければならないのです。愛知がんセンター疫学部長田島和雄先生は、「地域がん登録と疫学研究—成人T細胞白血病・リンパ腫を例として—」と題して、がん対策における地域がん登録資料の有用性を強調され、一例として長崎県におけるATLの疫学について紹介されました。会長講演としては、広島と長崎にのみ設置されている腫瘍組織登録の方法、利点と欠点及び地域がん登録の中での重要性、研究材料としての有用性について紹介しました。

パネルディスカッションのテーマとしては、「九州・沖縄のがん登録」が取り上げられ、福岡、佐賀、長崎、熊

本、沖縄各県の登録の現状、方法の改善案、地域特性などが報告されました。九州・沖縄には、がん発生傾向に地域特性があることから、興味深い報告でありました。以上の内容については近くモノグラフ No.2 として発刊される予定でありますので、詳しくはそれを参照して下さい。研究会の最後に、関連研究班の報告を伺いましたが、何れも国と地方のがん対策にとって重要な課題であり、相互の連携も必要であると考えられました。

がん登録実務者自由集会の報告

早田 みどり

放射線影響研究所疫学部

平成8年9月19日夕刻、23都道府県より62名の参加を得、長崎大学医学部ポンペ会館において、地域がん登録全国協議会実務者自由集会が行われました。参加者の職種は、地方自治体職員から県医師会会長と様々でしたが、経験の長短はさておき、何れもがん登録と何らかの関わりを持つ方々でした。

今回は、各登録室間の交流、殊に登録業務に携わる人同士の交流を図る事を第一義に考え、出席者全員に簡単な自己紹介をしていただいた後、7班に分かれ、各班毎の自由討議に移りました。事前に提出していただいた各登録室のフローチャートに基づき、各人が現状報告していく中からそれぞれが抱えている問題点などを出し合い、討議していただきました。

話題の中心は、「如何にして届け出を促進させるか」という事でした。採録を取り入れようとしている登録室も多く、採録を積極的に行っているところの経験談などを、興味深く聞いておられました。

事務局の予想以上に議論が活発に行われ、途中から夕食が運び込まれたのですが、食事に移っていただくタイミングを計るのに大変苦労しました。食事はバイキング式だった事もあり、その後は、まとまった話もあまりできない様子でしたので、世話人の方から、事前に頂いた質問とそれに対する答えを披露いたしました。

以上、2時間という時間的制約の中で食事もとりながらという事で、十分納得のいく集会であったかどうかは疑問ですが、少なくとも、全員に何らかの発言をしていただき、今後の交流の糸口にはなったのではないかと愚考いたしております。